

緑の相談所だより

— 67号 —

2000. 12. 1 発行

編集：財団法人旭川市公園緑地協会旭川市緑の相談所

お正月リース作り

- 日時 12月16日(土曜日) 午前10時～12時
講師 野の花り沙 古川りさ子さん
材料費 1,300円 (当日ご持参いただきます)
持ち物 はさみ、古タオル、作品持ち帰り袋、エプロン
定員 35名(定員になり、締め切らせていただきました。)

講習会



お申し込み・お問い合わせは 旭川市緑の相談所 ☎65-5553



ニセアカシア



イチヨウ



ヌカキ(プラタナス)



トネリコ/カエデ(ヌグドカエデ)



ハルニレ



オオバコダイジュ



ユリノキ(ハンテンノキ)



カツラ

カボチャ

冬至のカボチャを食べましたか。年配の人にとっては懐かしい野菜ですね。

カボチャはウリ科のカボチャ属の植物です。

天文年間にカンボジアから渡来したのでカボチャというそうですが、実の原産地は中南米です。

私たちはカボチャと言っていますが関西ではナンキン、鹿児島ではポウブラというそうです。鹿児島県の歌、おてもやんのなかでも「ぼうぶらどんたちゃ」と歌われています。英語ではパンプキンですがちかごろは料理の本によくでていますね。

人をけなしてカボチャ野郎いったり、英語のパンプキンにもカラ威張り屋の意味があったりして軽蔑する意味があります。

というわけでカボチャには少々品の悪いニュアンスがあるのですが、じつはビタミンのA、B1、B2などをたくさん含んでいます。「冬至」に食べると風邪を引かないという言い伝えもあながち迷信とは言いきれないように思います。

日本ではもっぱら果肉を食べますが、中国ではその種も珍重しているとのこと。

種子にはビタミンB1、E、脂肪、タンパク質などの栄養素を含むので捨てずに利用したいものですが、ただこの種の皮をむくのは大層根気のいる仕事で、今の人たちにはやれないでしょう。

皮をむいた種を軽く煎って食べるとスナックのマツの実のような風味でなかなかおいしいものです。

私がこどものころ、祖母がきれいに水洗いした種を乾かし、暇をみては爪で丹念に皮をむき空き缶にためていました。煎った実をすり鉢ですってゴマの代わりにあえ物に使っていました。風味と香りがあっておいしいものでした。

カボチャは戦中、戦後の食料難時代は大事な食料でした。高年者にはおやつ代わりに、また主食代わりに、掌が黄色くなるくらい食べた記憶があることと思います。

いま店に出ているカボチャは平たいものばかりですが、われわれ高年者には赤や灰色などの丸みをもったカボチャも懐かしいものです。秋になると貯蔵のために軒下にたくさん並べていたことを思い出します。

また、マサカリカボチャも懐かしいですね。皮が3ミリほどに厚くて堅いのでマサカリで割るのでこういったのでしょう。甘味があってホクホクしておいしいカボチャでした。

今の若い人たちや子供たちは、カボチャにどんな思いを持っているのでしょうかね。

(文責 村田)



今年の冬至は12月21日です。



12・1月の鉢物の室内管理

ポインセチア 高い温度と日光を好みますので昼は暖かく明るい窓辺に置きます。夜も温度15℃以上に保たないと落葉します。長く楽しむために時々薄めの液肥を施します。オンシツコナジラミの好物です。葉がベタベタと光りだす前に見つけ根気よく退治します。花後、または落葉してしまった株は涼しい場所で休ませ、暖かくなってから剪定、植え替えし育て直します。



シクラメン 明るいところが好きですが、暖かすぎる部屋では長持ちしません。昼の温度は20℃前後、夜は10℃程で良く育ちます。水やりは土の表面が乾いたらすぐに球根頂部にかからないように、液肥も10日に1回必要。花がら、黄変した葉等は茎の根元をひねりながら抜き取り次の花の伸びを進めます。時々葉茎をかき分け、株元に光を入れると元気を回復します。



シヤコバサボテン 開花中は低温気味で長持ちします。水は控えめ、肥料は不要。花後は涼しい部屋に置き春まで生長を抑えておきます。この時株の高さを揃えるよう葉先を節で摘み、摘み取った葉先を挿し木し新しい株を殖やしても良いでしょう。春に古い株なら植え替えします。



アザレア 10℃以下の寒いところで休んだ後、暖かい部屋に持ち込むと蕾がふくらみ開花します。開花中は低温気味(20℃以下)で花が長持ちします。水は少量、肥料不要。花後は花がらを摘み、春まで寒い部屋に移動し休ませます。

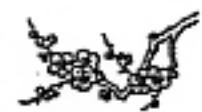


エラチオールベゴニア 日当たりと高温を好みます。夜間温度は15℃以上に保ちます。光線不足では株が徒長し、良い花を着けません。昼夜の温度差が大きいと蕾を落とします。花を着けなくなったら切り戻し植え替え、再生させます。



お正月に咲いたウメ

花が咲いたら涼しい場所に。花が終わったら新芽を伸ばさないように、寒い部屋に春まで置きます。水は少量、肥料は不要。



フーゲンビレア、ハイビスカス 熱帯性の花木類で強い光線と高温を要求します。冬の室内は温度は確保出来ても日照量は不足がちで良い環境とはいえませんので、いま咲いている花を楽しんだ後は水やりを控え、低温状態にして株を休ませ、春になってから剪定し植え替えるのが無難です。



観葉植物

強い光と高温が好きな種類が多く、冬の室内では水を控え低温気味にし、生長を抑えるような管理をしますと、光の少ない部屋の隅でも長く緑が楽しめます。

葉の汚れと乾燥を嫌いますので、時々葉に霧吹きします。葉の表面がべたついたようになるカイガラムシの被害も多くなります。ブラシなどで拭き取るか、殺虫剤で駆除します。





雌雄異株の木は？



植物には雌雄が別株で、雌株のみでは結実しない植物があります。
ご存じですか。

常緑樹 ………アオキ、アカギ、アカミノイヌツグ、アコウ、イチイ、イズセンリョウ、イヌガシ、イヌガヤ、イヌツグ、イヌマキ、イブキ、ウシカバ、エゾユズリハ、オオツルツグ、カイズカイブキ、カゴノキ、カナリーヤシ、カヤ、カラスシキミ、カンノンチク、ガンコウラン、(キンモクセイ、ギンモクセイ=日本には雄株しか渡来していないので、雌株はない)、キヤラボク、クロガネモチ、クロチク、グッケイジュ、サネカズラ、シイモチ、ジンチョウゲ、シロダモ、シンノウヤシ、シュロ、シュロチク、セイヨウヒイラギ、ソテツ、ソヨゴ、タコノキ、タマイブキ、タラヨウ、ツゲ、ツルシキミ、ツルツグ、ツルマンリョウ、テンダイウヤク、トウジロウ、トベラ、ナギイカダ、ハイイヌガヤ、ハイイヌツグ、ハインズ、ハイビャクシン、ハクチョウゲ、ハマヒサガヤ、ハマビワ、バリバリノキ、ヒイラギ、ヒイラギモクセイ(ギンモクセイ×ヒイラギの雑種=雄株だけが知られている)、ヒサカキ、ヒメアオキ、ヒメモチ、マメイヌツグ、ミヤマシキミ、ミヤマネズ、ミヤマビャクシン、メギ、モクセイ、モクレイシ、モチノキ、ヤマクルマ、ヤマモモ、ユズリハ、ヒメユズリハ、ラカンマキ、リシリビャクシン。

落葉樹 ………アオダモ、アオツツラフジ、アオハダ、アイモジ、アカメガシワ、アブラチャン、イイギリ、イチジク、イチヨウ、イヌザンショウ、イヌビワ、イブキジャコウソウ、ウコギ、ウチワノキ、ウメモドキ、ウルシ、エソクロウメモドキ、エビツル、オオバクロモジ、キーウイフルーツ、カジノキ、カツラ、キハダ、キブシ、ギンドロ、ギンヨウカエデ、クロウメモドキ、クロモジ、クワ(同株もあり)、コウモリカツラ、サイカチ、サルトリイバラ、サルナシ、サンカクツル、サンショウ、シダレヤナギ、シロモジ、タカノツメ、チドリノキ、チョウセンゴミシ、チョウセンレンギョウ、ツタウルシ、ツルウメモドキ、ドロノキ、ナニワズ、ニガキ、ニワウルシ、ヌルデ、ネグンドカエデ、ネコヤナギ、ハイイヌガヤ、ハゼノキ、ハナイカダ、ハリブキ、ヒメアオキ、ヒメウコギ、ヒメモチ、ヒロハノキハダ、マタタビ、マツブサ、マルバアオダモ、ミツデカエデ、ミヤマハンモドキ、ヤチダモ、ヤチヤナギ、ヤドリギ、ヤマウコギ、ヤマウルシ、ヤマグワ(まれに同株もあり)、ヤマナラシ、ヤマハゼ、ヤマブドウ、ランシンボク、ルブルムカエデ、レンギョウ。



丸ゴシック字は北海道関係の木